

4 へき地教育の振興

〔施策設定の理由〕

(1) へき地学校

へき地に所在する本県へき地学校数は、昭和39年5月現在、小学校205校、中学校51校で、小学校、中学校合せて256校となっている。

これが、全県の学校総数に占める割合についてみると、第16表のとおりである。

第16表 へき地学校数 (昭39.5.1現在)

	本校、分校別		全 県 総 数 (A)	へき地校数 (B)	へき地の占める割合 (B)/(A)%
	本 分	校 校			
小 学 校			576	62	10.8%
			257	143	55.6%
	計		833	205	24.7%
中 学 校			392	99	11.7%
			19	12	90.8%
	計		345	51	15.0%

これによると、小学校では、全県の学校数の24.7%が、中学校では、同じく15.0%がへき地校であることがわかる。つまり全県小学校の約4分の1が、そして全県中学校の6分の1が、へき地校であるということになる。また、ここで学んでいる児童生徒は、小学校16,315人、中学校8,965人、小、中合せて25,280人となっている。

このへき地学校数は、本校、分校を1校として計上したものであるが、これを本校、分校別々にみると、へき地学校の特色が、より一層明かには握ることができる。分校については、小学校では、全県分校総数の55.6%が、中学校では、同じく90.8%がへき地分校で占められている。

さらにへき地の大きな特色として、冬季だけ開設する季節分校が、第17表のように存在することである。

第17表 季節分校設置状況 (昭39.5.1現在)

	学 校 数		学 級 数		児 童 生 徒 数	
	全 県	へき地	全 県	へき地	全 県	へき地
小 学 校	78	49	85	53	1,039	635
中 学 校	21	17	21	20	282	279
計	99	66	106	73	1,321	914

このように本県においては、へき地学校の占める割合が大きいのであるから、本県教育振興のためには、へき地学校の振興が何よりも大切であって、それを無視することはできない。

(2) 学 級 編 制

へき地は、小規模校、分校、季節分校の多いのが目立っている。したがって1校当りの児童生徒数が少ないため必然的に単級、複式学級制をとらざるを得ない。へき地校の学級編制別学級数は、第18表のとおりである。